



碧南ロータリークラブ週報

第2423回例会 平成20年9月2日(火)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make
Dreams
Real**

● 斉 唱

ロータリーソング「我らの生業」

● 四つのテスト

● 本日のメニュー

和風弁当 衣浦グランドホテル

● 本日のお客様

第2760地区ガバナー 片山主水氏、 地区幹事 宮崎 薫氏
 半 田RC 畑中 雅之君、鈴木 丈雄君
 知 立RC 久恒 治人君、渡辺 伸一君
 高 浜RC 小笠原芳夫君、笠松 栄治君、川角年比古君
 西尾KIRARARC 石川 逸大君、磯貝総一郎君、中根 勝美君、齋藤 保夫君、鈴木 正司君、
 高須 光君、山内 玄治君
 三河安城RC 深津 茂樹君、堀本 保美君、杉浦眞理子君、山崎加央里君



会 長 挨拶

本日は、愛知81ロータリークラブ、5200名の会員のトップリーダーであります、RI2760地区片山主水（もんど）ガバナーの公式訪問日でございます。片山ガバナー、そして宮崎地区幹事、ようこそお越し下さいました。碧南、高浜、両クラブを代表いたしまして、ご来訪を衷心より歓迎を申し上げます。



碧南、高浜、両クラブは、ガバナー公式訪問を合同で行う機会が多いのですが、又スポンサークラブも刈谷クラブで親も同じでございます。地理的にも南北地続きであり、衣浦湾に面しており、産業も主(おも)に瓦生産を代表する窯業や、自動車産業の関連企業が多く立地し、所轄警察も同じであり、大変気心、相通じる、クラブどうしが正に同志の間柄であります。

さて、私ども碧南クラブは、本年創立50周年を迎え、また高浜クラブも40周年という両クラブとも大きな節目を迎える年となりました。ロータリークラブは、各クラブが、会社で言いますと社風と言いますか、それぞれ独特固有のカラーを有します。碧南クラブは、チャーターナイトを迎える日が、伊勢湾台風来襲という悲劇的スタートを切ったクラブであります。その非常時にメンバー一同が、落胆の中、奉仕活動をするという、正に星が爆発して誕生したように、危機、異常の中でしたから、結束型仲良しDNAを持ったクラブができたのではと想像いたしております。さて、片山ガバナーは、本年度の地区方針として「持続可能な前進」と掲げられました。小さな

ことでも前進に繋がる(つながる)ことであれば、お互いにいとわずにやることにしよう、それが、「持続可能な前進」とおっしゃっておられます。進化論で有名なチャールズ・ダーウインは、「種(しゅ)の起源」の中で、「最も強いものが生き残れるのではなく、最も賢い(かしこい)者が生き残れるわけでもない。唯一(ゆいいつ)生き残れるのは変化に対応できる者である。」と述べています。変えてはいけない事は、しっかり守り、変えなければならぬ事は、勇気をもって対処し、時代に遅れないよう進めて参りたいと考えます。クラブの空気がよどむことなく、いつも清新で心地いい、風通しの良さを感じるクラブ運営の中で、無の境地でロータリーに皆が心を傾注、活動を邁進(まいしん)できれば、ロータリーと個が正に合体した理想的瞬間と考えます。

この後、片山ガバナーより卓話でご指導受けますが、両クラブの更なる進化を期待しまして、会長告知とさせていただきます。有難うございました。

幹事報告

・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数80名(内出席免除者14名の内出席者10名)出席者75名	
出席対象者 75/80名	出席率 98.68%
欠席者 5名(病欠者0名)	前々回修正出席率 98.65%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

第2760地区ガバナー片山主水氏、地区幹事 宮崎 薫氏より大変たくさん頂きました。

平岩統一郎君

長田 豊治君

小笠原良治君

鈴木 輝彦君

片山主水ガバナー、宮崎薫地区幹事のご来訪を心より歓迎申し上げます。

8月28日丸八重整備の杉浦君に大変お世話に成りました。雨の合間をみてのNHK取材、大変でした。

久しぶりの出席です。入院中は多数の方々にお見舞い頂きました。大変ありがとうございました。

卓話

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 片山主水氏

今日は公式訪問の機会を得まして訪問させていただきました。このように歓迎いただきまして大変有り難うございます。

皆様方にも日頃ロータリー活動に心掛けていただきまして御同慶に存じます。この30分間のお話で皆さんに感銘の深い話をしなければと思ってきました。この公式訪問の短い時間のなかでガバナーがお話ししなくてはならないことが沢山あります。しかし時間の関係で割愛させていただきます。

先程の会長幹事会で会長幹事さんに事情をお話しし皆さんにお伝えしていただくようお願いしましたので、結論の部分だけ 重要事項について お話しします。1つはポリオゲイツチャレンジの事です。RIは本年度を初年度として三年間各クラブ毎年1000ドルしかし、クラブの会員数は100名以上から20名以下まであって、同一ということは如何にも不合理ですから、この地区のこれまでの経緯を考えて、本年度を初年度として3年間一人毎年1000円をお願いします。足りない分はDDFという3年前の年次寄附金の2分の1が地区の活動資金として戻ってきますが、その繰越金が2~3000万円程あります。用途を指定されてはいますが、今回使用できるそうですから両方を使用して全国平均額にはしようと思っています。どうぞご協力の程願ひあげます。



2つ目は会員増強です。ご承知のように、10年来の世界の趨勢は120万人から微増ですが、日本は34地区長期減少傾向であります。ひょっとすれば昨年度末で増加に転じるのではないかと、期待がもたれた訳ですが昨年度末の会員の確定数がでました。日本全地区合計は1472名の減少、当地区は愛知81は、32減5039人ということになりました。本年の各クラブ集計の純増は、316人丁度6%です。皆さん一人一人が会員増強委員長になった積りでお願いします。

3つ目は地区大会が、この11月15日・16日に、名古屋名東クラブのホストにより名古屋ウエスティングキャッスルにおいて、小泉純一郎元首相を特別講師に開かれます。どうぞ奥様方もまた入会候補の方も誘い合わせて、是非ともご出席いただきますよう、これは伏してお願い申し上げます。それに第1日目にR I会長を囲んで昼食会というのがあります。この昼食会に、年齢81歳以上の会員の方々の謝恩の気持ちやら敬老の気持ちやら激励の気持ちやらいろいろの気持ちを込めて招待し、歓談の一時をもっていただくという企画を持っています。合わせてご出席いただきますように歓迎します。

4つ目は当地区と2600地区とが1987年分離独立して昨年20年を迎えました。分離の年とその10年経過時に地区史を編纂しています。今年度も現在鋭意編集であり、10月には出版の予定です。1冊2000円ですので宜しく願い申し上げます。これから入会される会員の分も合わせてご購入下さい。

最後ですが、来年6月に開催される世界大会バーミングハム日本の元理事が、大会実行委員長をされ一生懸命人集めをされています。なかなか行く機会のないところですのでどうぞ無理のないところでお誘い合わせのうえ、ご参加いただきければと思います。

以上お頼み事項です。次に絶対触れなければならない事項です。それはR Iテーマ・強調事項、地区方針・重点事項ですが、ガバナー補佐・会長の方々より、聞かれていると思いますから簡単に触れ、最後に 綱領と調和の奉仕を補充します。

李東建R I会長の本年度のR Iテーマは、夢をかたちに、Make Dreams Real 強調事項は、「子供たちのために」水保全 保健・飢餓救済 識字率向上です。健やかに成長し人生を全うしたいと願っている子供たちの夢が、この「Dreams」のなかの第一の夢でしょう。子供たちの夢を叶えてやりたいという李東建会長の夢もまさしくその中の一つです。我々ロータリアンすべての夢も入っている夢です。クラブ・ロータリアン各位がこのテーマと強調事項にそって格別の活動を展開されることをお願いします。

地区方針は「持続可能な前進！！組織運営で・奉仕活動で・会員増強で・・・」です。「持続可能な前進」という言葉は、1972年ローマクラブが将来的な世界人口の爆発的な増加と経済の急激な拡大は食料生産・天然資源に対し無制限ではありえず成長には限界があり これら諸要素の負の遺産である地球環境の悪化はこのままでは差程遠くない時期に人類を死滅に至らせるであろうと警鐘を鳴らした報告書「成長の限界」に源を有しています。この警鐘は全世界の人々に、世界人口の爆発的な増加と経済の急激な拡大、食料生産・天然資源の有限性地球環境への影響の項目そのものに注意するよう呼びかけただけでなく、無策な世界の為政者に目を向けさせ、地球規模の対策を呼びかけるとともに、全世界の企業と人々に自制を呼びかけたものでした。その後の初の地球規模のストックホルム人間環境会議、国連環境計画等において経済・人口の秩序ある成長・増加と環境の悪化防止の重要性が認識され「持続可能な発展・開発」という一定の概念を含んだ用語が創造されました「持続可能な前進！！」はこれにならうものです。

ロータリーの永遠の存続のために、臨機応変無いところを補い、余るところを削り、曲がっているところを正し、すべての点において時の環境に適応・調和した前進を図りたいという気持ちがいっぱい詰まっているものです。

ロータリーが前進し生き残るためには変化という代償は支払わなければなりません。R I 第27

60地区ロータリー愛知81には相応しい標語です。サブフレーズを「ロータリーに心を、ロータリーを心に、ロータリーの心を」としました。持続可能な前進ともども愛顧願います。次の4項目を重点事項としました。持続可能な発展に5大要素があったように、持続可能な前進！には次の4項目に注目しなければなりません。

第1は、ロータリーの綱領（目的）の再確認です。これは心の問題です。

第2は、地区分区クラブの管理運営機構の整備です。これは姿・形の問題です。

第3は、「調和の奉仕」です。これは行動の問題です。

第4は、人的・物的資源の維持強化（研修・寄金増強）です。これは地肉の問題です。

第5は、基礎となるエネルギーの問題です。文字通り資源の問題です。

以上が地区方針と重点項目です。よろしくご理解いただきますようお願い申し上げます。

ロータリーにこんな難しい話はどうもならんという話をします。10分間します。非常に有益な話ですからだまされたと思って、聞いて下さい。こんな話は2度とは聞けません 聞かなければ一生の損です。私も30年ロータリーを経験していますが、ロータリーの綱領・目的について、真剣な話を先輩から聞いたことがありません。ロータリーの奉仕には「超我の奉仕」の理念に基づくいわゆる。社会奉仕と言われる奉仕の分野があります。社会的弱者に対する救済を主とした人道的奉仕・次世代育成活動等の分野です。また、これとは異なる考え方最もいい奉仕をする者、最も多く報われるという考えによる職業奉仕の分野があります。最良奉仕の最多果報という考え・理論による奉仕の分野です。

綱領には、「ロータリーの綱領は、事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、育成することにある」と記載されています。文章が簡潔に過ぎて、少し判りづらいですが、第一感 は 事業の基礎としてと書いてありますから職業奉仕のことを言っているな、ということです。原文の字面から最善の解釈をしますと、まず難解な奉仕の理想というのは、理想的な奉仕・サービスと解釈することとして、理想的な奉仕というのは、例のhe profits most who servises best最良奉仕の最多果報の最良奉仕のことですから、結局綱領の意味は、最良の奉仕をすることが、事業の基礎になるんだという考え方を、吹聴しようその考え方を育成しようということです。言葉を換えて言うと、良心的な奉仕の心をもって最良のサービスを提供することが 事業の繁栄に取って非常に有益である。という考え方です。これが、職業における奉仕の理論職業における奉仕の考え方です。

この考え方・理論を信念として持つように吹聴しよう育成しよう。というのです。これが冒頭部分は意味です。それでは、その最良の奉仕とは何かといえば、最高・最上のレベルの技術・ノウハウによる品質であることは勿論法的に違反するようなことのないのは当然、そういうサービスを心を込めて提供することです。

従って、このような最良の奉仕の事業を遂行することが職業奉仕です。技術を磨きノウハウを駆使し法に従った最良のサービスを提供する。そういう事業を遂行すること自体が 職業奉仕です。事業の技術的水準・道徳的水準を向上させることから、その心と技をもって事業を遂行しサービスを提供するまで、この一連の行為が職業奉仕です。

綱領の本文は、職業奉仕を冒頭で述べているといいますが、その余の奉仕については述べていません。「超我の奉仕」の精神による奉仕を述べているところはありません。近年ロータリーはロータリーの理念というのを出しました。ロータリーは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。と言います。ここでも言うように、ロータリーは奉仕一般を標榜し現に実行しています。それを、最高指針である綱領の冒頭で、一言も触れないということは、不十分不足というより大きな間違いです。いや

その次で述べているではないか、と言う人もいます。もう少し見てみましょう。冒頭部分に続く本文第2文は「特に次の各項を鼓吹し育成することにある」と言っています。日本用語としての「特に」はその前に述べられ触れられていて、もう一度触れて強調する時に初めて「特に」と使う用法です。であるのに 綱領では「特に」と言いながら前で触れられたことのない（前で触れられていることは 職業奉仕のことですが）4項も（2項目はいいと思います）を上げています。特にと訳すのは誤訳です。特にの原文はin particularですからその語としては誤訳ではありませんが、part という語やparticleと言う語が見えていますから、個々具体的に言えばと言うニュアンスです。そうすると「冒頭のこの文の前で抽象的に触れたが、具体的に言えば」と言うニュアンスです。全体の文の組み立てもそうなっていますからそう訳すべきです。このように訳せば日本語としてすっきりします。

ところが特にと言いながら、前では触れられていないのです。たまたま2項めはぴったりですが、他の項目は唐突に列記されている。という印象です。例えば1項めの奉仕の機会として知り合いを広めることと、事業の基礎として奉仕の理想を育成する、という職業奉仕とどういう関係がありますか、この2つの文の中に職業奉仕の接点がありますか・・・ありません。3項めも、接点はありません。最後の4項めの奉仕の理想によって結ばれた事業・専門職務に携わるロータリアンにより、世界理解・親善と平和を達成するという文章そのものはいいですよ、そういう目的意識をもって追加したものですから、文章そのものは問題ありません。しかし、職業奉仕と全然関係がありません。特にでもありません。

要はこの文章は作成時点から熟成不十分であると考えざるを得ないものです。ロータリーが現実に「超我の奉仕」として活動しているのですからまず、奉仕一般社会奉仕のことを規定しなければなりません。規定しなくてもいいんだという、特別の理由はありません。この点が致命的に不十分です。ロータリーの綱領・目的というのは、国で言うならば一国の憲法 基本中の基本を定めてものです。その国の憲法に欠陥があるんです。ロータリーの心、心臓部分に欠陥があるんです。職業奉仕というのは、今出来る最良のサービスを相手に提供するその最良のサービスの中に 当然 最善の努力による最良の品質（性能・耐久性・食品であれば美味さ・栄養・・・）安全性・合法性）で欠陥のないサービス これを提供し そういう職業を営むことが職業奉仕だとロータリーは言っているでしょう。そう言っているロータリー自身が欠陥のある綱領を 鼓吹してどうしますか。すぐにでも欠陥を補修しなければなりません。

私が地区目標・重点項目のなかで、ロータリーの綱領の再確認と言って1番目に上げてあるのは、ロータリーにとって奉仕の実践より、地区の組織より精神・心の問題が、先に有るべき問題だと思うからです。心・・・目的が明確でなければ、ロータリアンが迷いますし、目的がはっきりしなければ気が晴れません。ひいては最良奉仕ができません。心の有耶無耶が整理できないと精神疲労を起こします。そのように思いますから問題にしている訳です。ロータリーの綱領は冒頭で職業奉仕のことを謳っていますが、職業奉仕だけでは不十分であり、社会奉仕・国際奉仕・新世代等を含めたものとしての社会奉仕一般に触れるべきであり、以下の項目も4大奉仕を含めたものとしてきちんと改正すべきであるというのが、今日の綱領の話の結論ですが、これは私の1つの見解に過ぎません。これを足かかりにして、皆さんにもロータリーの綱領・目的などを考えていただきたい、と思っています。

その次にお話したいことは、調和の奉仕です。奉仕の中でも奉仕の分野においても奉仕の方法においても・・・ 奉仕は奉仕以外のロータリー活動と程よい調和の中で・・・。奉仕と親睦との調和です。奉仕と奉仕以外のロータリー活動の調和です。ちょっとそれますが、ロータリーソングに我等の生業という歌があります。我等の生業さまざまなれど 集いて図る心は一つ、求むるところは和らぎ睦び、力むるところは向上・奉仕。この歌は高名な明治・大正時代の作詩

高野辰之・作曲岡野貞一の手になるもので、二人とも教授でコンビで文部省唱歌「ふるさと」「朧月夜」「春がきた」「春の小川」「紅葉」「日本の旗」などを作っています。この高名な二人にロータリーは、ロータリーの歌を頼んでいたということに感心しますが、こういう人の手による歌だということになれば、また違った目で見ます。我等の生業さまざまなれど、集いて図る心は一つ、求むるところは和らぎ睦み、務むるところは、向上奉仕。職業は多様、その心は一様対句になっています。求めて止まないものは、和らぎ睦み、心の平安と親睦だ。と言っています。しかし義務として務めなければならないものは、人間向上と奉仕だと言っています。対比 対句で格調高い詩であることが判ります。親睦と奉仕、親睦の前には、心のやわらぎ・平安を置き、奉仕の前にはまず自己の向上を唱えています。実にロータリーの核心を突いています。この歌がいうこの親睦と奉仕は、ロータリーを中から支えている。重要な要素ですこの2つの関係は2本柱と言われますが、同質の柱ではないようです。2本柱だとしても1本は縦に立つ柱、もう1本は横に土台部分に使われる土台柱です。また車の両輪に昔から例えます。両輪でも左右の両輪ではなく前後の両輪です。ロータリーの目的の奉仕は前輪でハンドルに直結し車の行き先をに方向性を与え、どこへでもロータリーを導きます。親睦は後輪でエンジンに直結し、活力を生み出し車を動かします。一方の奉仕はクラブを導き、一方の親睦の方は下から押し上げる、2つはそういう関係でしょう。そういう関係ですから、奉仕も親睦も不可欠のものです。

時間がきましたので これで終わりますが、私がロータリーの綱領・目的のこと奉仕と親睦のことなどをの、やはり心の整理考え方の整理が必要だと思うからです。

ご静聴有り難うございました。またの機会を楽しみにしております。

クラブと会員皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念しまして、終りとさせていただきます 有り難うございました。

お 礼 の 言 葉

高浜RC会長 中村さと子君



次回例会案内 平成20年9月17日(水)
リハーサル例会 会場：衣浦グランドホテル